

神戸外国人墓地セミナー



ノルウェー人 砲手と神戸

～ 捕鯨がつないだ世界～

日時

2025年 **10月18日(土)** 14:00～15:30



現在に至る近代捕鯨はノルウェーが発祥の地です。

その技術や設備を日本に伝えたのは極東に来たノルウェー人砲手たちでした。

この講演では、ノルウェーのアーカイブに保存されている1900年前後の写真や砲手の日誌から、神戸と捕鯨のつながり、日本の近代捕鯨の最初期の様子を探ります。

日本の捕鯨会社はアメリカ人研究者に調査の機会を提供し、科学的知見の蓄積にも貢献しました。

彼、R.C. アンドリュースが撮影した1909年の神戸や六甲山の写真も紹介します。

講義内容

- 1 神戸と捕鯨
- 2 外国人墓地に眠るノルウェー人捕鯨者
- 3 日本の近代捕鯨を指導したノルウェー人砲手
- 4 アメリカ人研究者が撮影した日本の近代捕鯨と1909年の神戸
- 5 ノルウェーから見た近代捕鯨

場所 神戸市立外国人墓地 礼拝堂 **定員** 40名（先着順、1組4名まで）

申込 神戸市立外国人墓地事務所（☎078-341-5200）に電話

講師：宇仁 義和 (UNI Yoshikazu)

京都生まれ、北海道大学教育学部卒業、東京農業大学教授。

網走にある生物産業学部で学芸員養成課程を担当、斜里町立知床博物館の学芸員も務める。日本の近代捕鯨や毛皮産業などの研究のかたわら、明治大正期の遠隔地の写真についても調査を継続。

現在は縮小社会を前提にした博物館の民俗資料の将来について試行錯誤を継続中。

